

体験車で地震の怖さ実感

1500食分の炊き出しも

宮坂建設工業が 住民参加型防災訓練

【帯広発】宮坂建設工業(帯広、宮坂寿文社長)は、同社の全従業員を動員して第十九回防災訓練を実施した。午前九時に帯広市近郊と札幌市近郊で震度5強の地震が発生したことを想定し、帯広、札幌、北見の三ヶ所で実施。帯広市では本社に災害対策本部を設置した。十一時からは帯広中央公園に本部を移動。各分注官や協力会社、地元小学生や町内会など二千五百人が防犯、地震体験車試乗訓練などを行った。炊き出し訓練として豚汁とお握り二千五百食分を用意し、参加者に無料で振る舞った。



中撮影シスターの演奏
地震体験車の試乗や不整地掘削機のシミュレーションによる操作訓練などを行った。

会場には、帯広市立明星小学校、地元商店街や各分注官、地域住民など二千五百人が来場。炊き出し訓練では豚汁とお握りを二千五百人分を用意し、来場者に無料で振る舞った。地震体験車の試乗では、体験者が悲鳴を上げながら体験し、地震の恐ろしさを

通報、救助の流れ確認

非常事態への心構え学ぶ

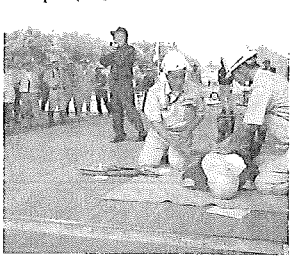
北見では、網走開港所 見警察署交通課・警備課に管する三九号北見道路路橋橋脚事業関連工事の請け負い宮坂・松谷特定JVとして、第一北見タクト・ネル起點抗口付近で実施した。写真見。工事関係者や近隣住民ら総勢約十人が参加。北見工業の船山進執行役員社長

訓練では、人呼喚と心臓マッサージ、AEDを使った心肺蘇生法を人形を使って実習し、写真見。参加者は本番さながら、急を要する救命救命の手順や注意点を頭にしたききこんでいた。同支店の菊池章務は、訓練に先立つあいさつで「当社は地域の安全を守るための二十四時間態勢で対応している。この日は当社創業九十年、支店開設七十周年にあたる。今後も地域のお役に立てるよう取り組みたい」と一層の決意を語った。

消火、心肺蘇生…素早く

札幌支店

雨の中、本番さながらに



宮坂建設工業が豊川で、施工中の国道12号札幌市東橋脚脚工事(札幌開建設)の現場が訓練会場。札幌市内で震度5強の地震が起き、東橋工事現場で火災

発生との想定で実施した。発生後には、現場に本部を設置し、現場の状況について、帯広本社と本部とのテレビ会議を通じて情報共有し、連絡体制を確認した。

そのあと、協力会社や地元の関係者を含め約八人が参加し、東橋工事現場で火災

河川への油流出に伴うイルフエンス設置訓練では、ラフタークレーンで持ち上げた資材を素早く河岸に設置。また、消防員らの指導で消火器の使用訓練も実施し、参加者は消火剤の代わりに水が入った消火器で放水を試みた。

船舶現場代理人がニユーマチッククレーン工法を使った橋脚工事の概要を町内会関係者と説明し、高圧状態になる気筒作業室からのけが人の救出訓練にも力が入った。

意識がないけが人の救命



午後からは、第一北見タクト・ネル作業員を対象に安全教育訓練を実施した。